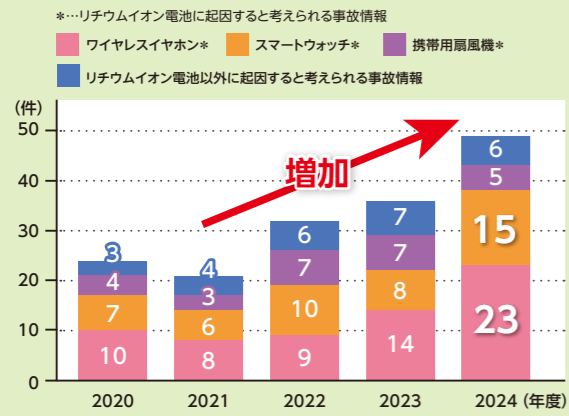


リチウムイオン電池の発火事故

参考:「リチウムイオン電池使用製品による発火事故に注意しましょう-身に着ける、持ち歩く製品にも使用されています-」(消費者庁) (https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_083/assets/caution_083_251002_0001.pdf)を加工して株式会社レンタルのニッケンが作成

ワイヤレスイヤホンやスマートウォッチ、携帯用扇風機など、多くの製品に使用されているリチウムイオン電池ですが、使用や廃棄方法を間違えると、発熱・発火事故に繋がる恐れがあります。

発熱・発火等事故情報の年度別登録件数 (ワイヤレスイヤホン、スマートウォッチ、携帯用扇風機の合計)

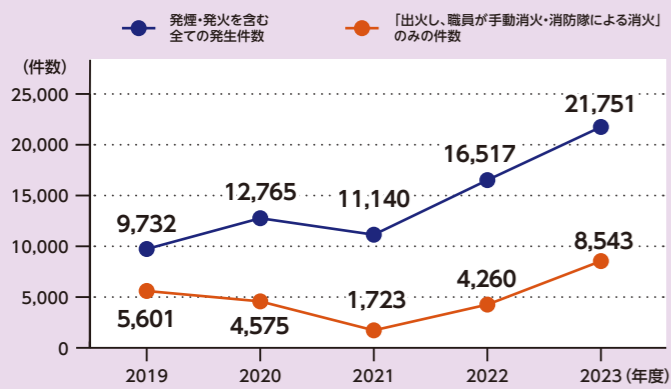


使用時のPoint

- 強い衝撃や圧力を加えない
- 高温になる場所では使用・保管しない
- 充電は安全な場所で、なるべく起きている時に行う
- 異常を感じたら使用を中止する
- 発火した時はまず安全を確保し、できれば大量の水で消火する
- 製品情報・リコール情報を確認する
- 公共交通機関では、持ち込みルールを守る

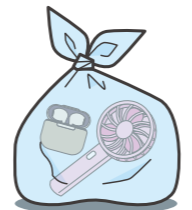


ごみ収集車やごみ処理施設における 火災事故等の発生件数推移



廃棄時のPoint

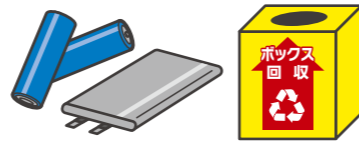
- リチウムイオン電池が使用されているか確認する
- リサイクル可能なものはリサイクルする
- 廃棄方法を確認し、廃棄する
- 廃棄前になるべく電池を使い切る



安易に「不燃ごみ」で捨てていませんか?

一般的に不燃ごみは、細かく砕く処理をします。その際にリチウムイオン電池などが紛れていると、衝撃により発火し、火災に繋がることがあります。安易に不燃ごみとして処分せず、必ず自治体のルールに沿って処分しましょう。一部製品は製造メーカーなどによるボックス回収を利用することができます。

参考:「リチウムイオン電池、誤った捨て方で火災に!」(政府広報オンライン) (https://www.gov-online.go.jp/article/202509/entry-9169.html)を加工して作成



5月30日~6月5日は「ごみ減量・リサイクル推進週間」です

毎年5月30日は、「ご(5)み(3)ゼロ(0)」の語呂合わせで「ごみゼロの日」、6月5日は「環境の日」に定められており、3Rの推進運動や不法投棄監視パトロールなどが全国各地で行われています。

参考:「エコジ 2019年4・5月号 VOLUME.70 ごみゼロの日」(環境省) (https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin_backnumber/issues/19-04/19-04d/knowledge.html)を加工して作成

レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

レンタルのニッケン 検索



安全ニュースのご活用についてお願い

- 弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。
- 安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で転載・複製・複製・複製・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
 - 弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
 - 本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

レンタルのニッケン 公式 X 情報発信中!



フォロー
宜しく
お願いします!



UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたらeメールをご活用ください e-mail: nikken@rental.co.jp



レンタルのニッケン

お客様の安全作業のために。

安全ニュース

Safety news

2026年
5月号
No.293

編集・発行

株式会社レンタルのニッケン
安全部/営業支援部

お問い合わせ

TEL.03-6775-7811

特集 水防月間

- 水防の必要性
- 加速する気候変動
- 異常気象 ~大規模な大気の流れの特徴と天候への影響~
- リチウムイオン電池の発火事故

2026年
6月号の予告
全国安全週間

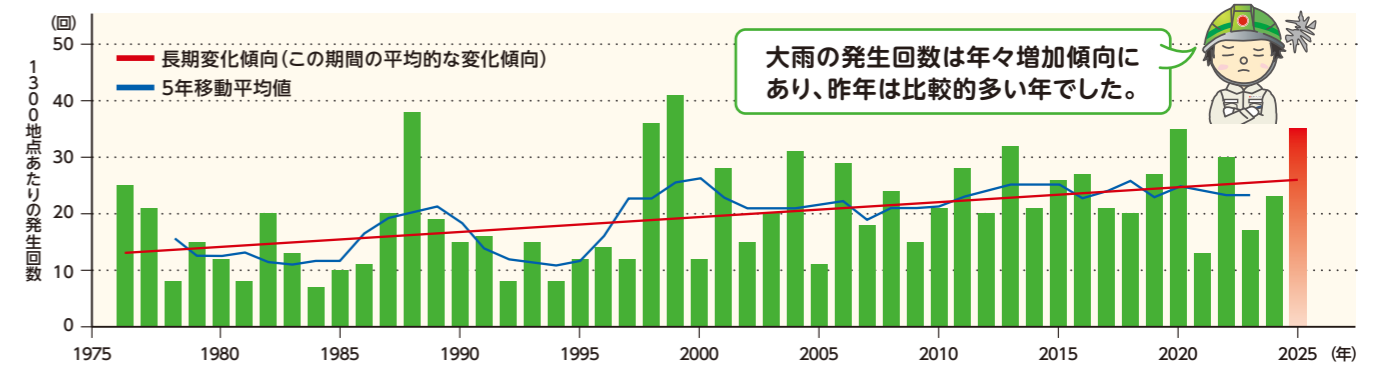
水防の必要性

参考:「水防月間(5月1日~31日)のお知らせ~洪水から守ろうみんなの地域~」(国土交通省) (https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000234.html)を加工して作成

国土交通省では梅雨や台風の時期を前に水防の意義と重要性への理解を深めるため、毎年5月(北海道は6月)を「水防月間」と定め、「流域治水」の実効性向上に向けた様々な取組を実施しています。

[全国アメダス] 1時間降水量80mm以上の年間発生回数

参考:「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」(国土交通省気象庁) (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html)を加工して作成



雨の強さと降り方

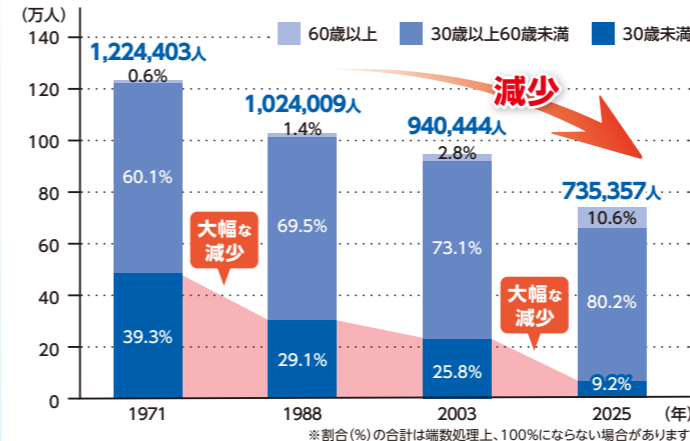
参考:「雨と風(雨と風の階級表)」(国土交通省気象庁) (https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze.pdf)を加工して作成

1時間雨量(mm)	雨の強さ(予報用語)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅)	屋外の様子	車に乗っていて
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。	寝ている人の半数くらいが雨に気づく。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる。	車の運転は危険。
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

水防活動

水防団員・消防団員の人数と年齢構成の推移

参考:「水害から暮らしを守る水防活動。日頃の備えで被害を防ぐ」(政府広報オンライン) (https://www.gov-online.go.jp/article/202511/entry-10171.html)を加工して作成



水害の発生を警戒したり、土のうなどで水が溢れるのを防いだりすることを「水防」といいます。水防団員(多くの場合、消防団員が兼務)は全国に約74万人(2025年時点)おり、迅速かつ的確な水防活動の実施を担っています。

POINT

豪雨などの異常気象が増える中、水防団などの共助に加えて、自助として**日頃の備えと早めの避難**が重要です。



★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

異常気象 ～大規模な大気の流れの特徴と天候への影響～

参考:「令和7年夏の記録的な高温と7月の少雨の特徴およびその要因等について」(国土交通省気象庁) (https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai20250905.html)を加工して作成

2025年の6～8月は太平洋高気圧の張り出しが強まった影響で北・東・西日本を中心に高温となり、特に6月中旬から8月上旬にかけて顕著な高温となりました。今回はこのような天候をもたらした大規模な大気の流れについてご紹介します。

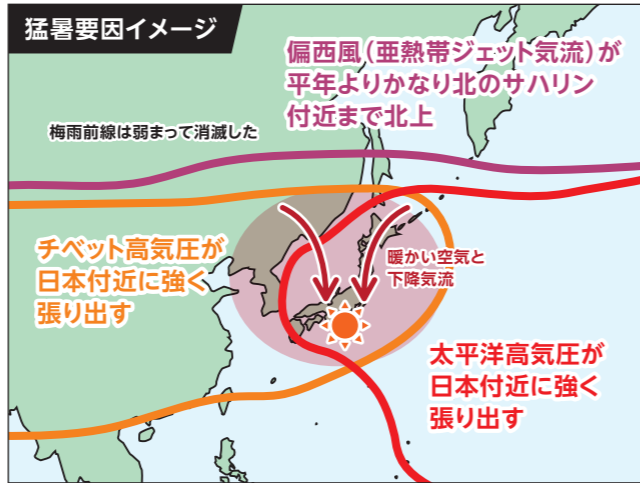
大規模な大気の流れの特徴

1 上空の偏西風が6月中旬～7月にかけて**平年よりかなり北側になるサハリン付近を流れた**

- 地表の梅雨前線は6月末には日本付近で消滅し、東・西日本では記録的に早い梅雨明けとなった。

2 偏西風の南側では上空のチベット高気圧が**北東方向に強く張り出し、日本付近は暖かい空気に覆われた。**

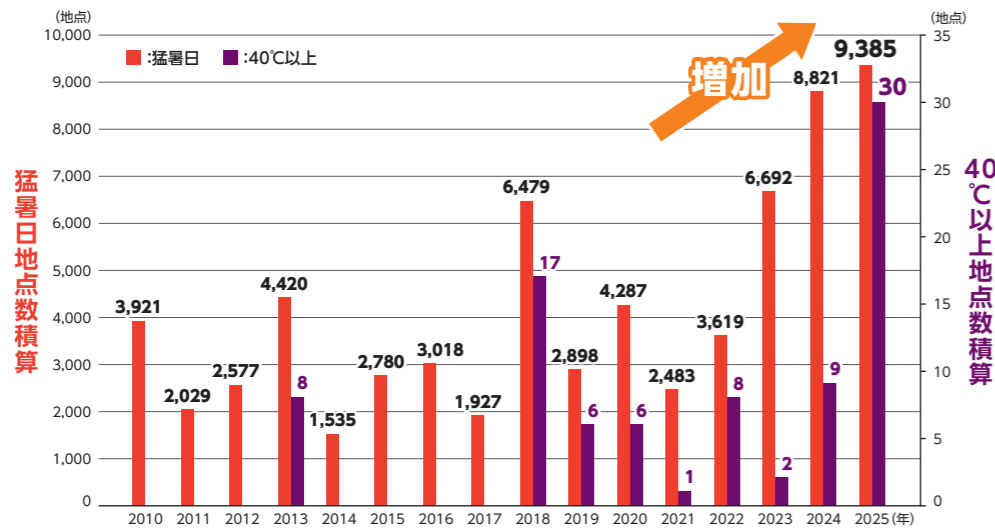
3 地表付近で、太平洋高気圧が**日本付近に強く張り出し、北日本まで覆った**



天候の特徴

北・東・西日本では、夏を通して暖かい空気に覆われ高い気温が続きました。8月5日には群馬県伊勢崎市で日最高気温国内最高の41.8℃が記録された他、40℃以上の延べ地点数は30地点と、猛暑日の延べ地点数とともに歴代最多となりました。

2010年以降の夏の猛暑日と日最高気温40℃以上の延べ地点数



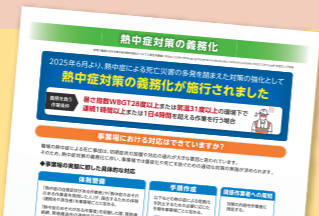
日本の夏の平均気温も1898年以降最も高く、2023年、2024年に続き**3年連続で最高**となりました。今年の夏も全国的に気温が高くなる見通しです。



安全ニュースVol.292(2026年4月号)で

熱中症対策をご紹介中

https://www.rental.co.jp/topics/pdf/2026_292.pdf



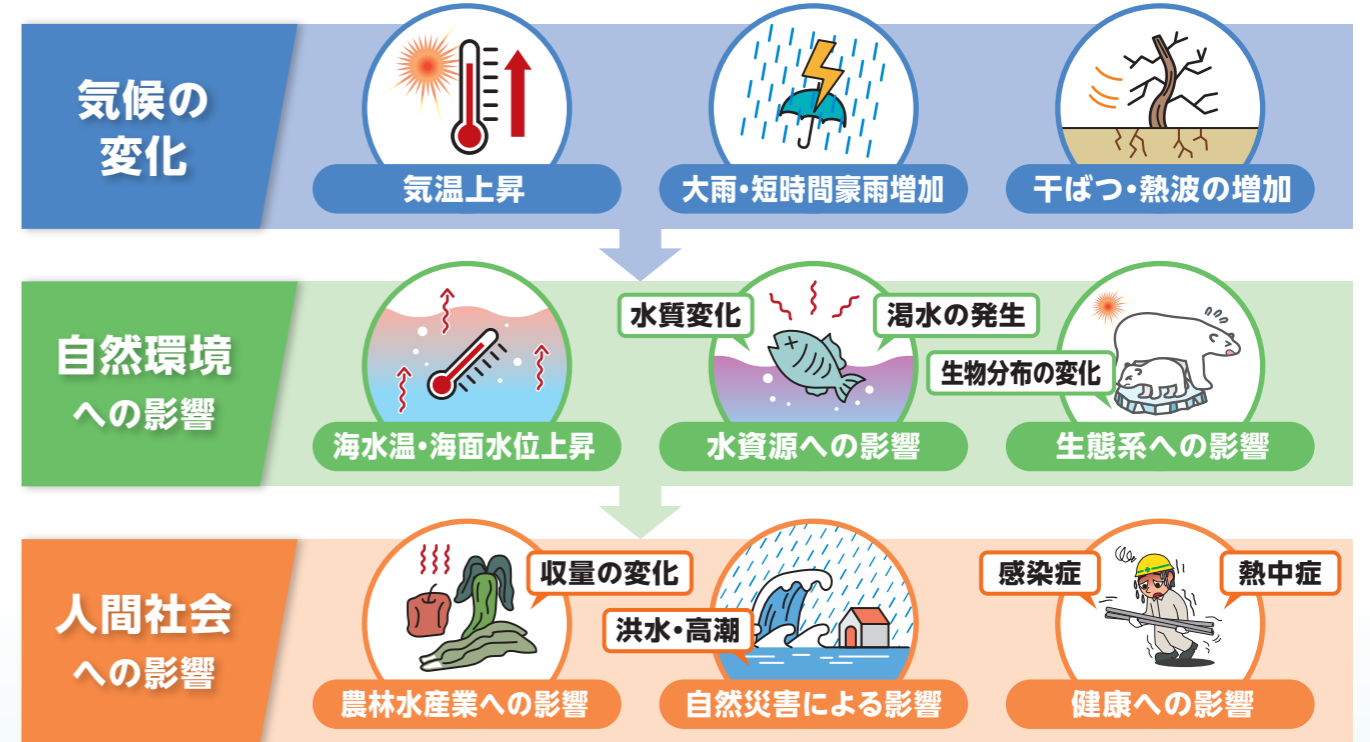
～熱中症対策と防災対策の励行をお願いします～

加速する気候変動

参考:「加速する気候変動 私たちの未来のために今できること」(環境省) (https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20250625.html)を加工して作成

広がる気候変動の影響

気温上昇により、大雨や短時間強雨の発生頻度の増加、干ばつ・熱波の増加、海面水位の上昇などが起こり、地球規模で自然生態系や人間社会への深刻な影響が危惧されるなど、気候変動は様々な影響をもたらしています。



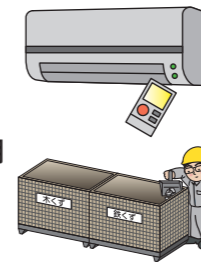
私たちにできることの例

気候変動への対策には、「緩和」と「適応」の2つがあり、企業においても再生可能エネルギーを活用するなどの「緩和策」や、農作物などを暑さに強く品種改良するといった「適応策」が行われています。

緩和

気候変動を緩和させるために、温室効果ガスの排出を削減する取り組み。

- **エコグッズの選択**
 - 電灯のLED化
 - 省エネ家電の利用
 - 節電&節水、雨水の利用
- **ごみの分別・削減**
- **公共交通機関の活用**



適応

気候変動の影響に対応し、その被害を回避・軽減させる取り組み。

- **熱中症対策**
- **雨水利用や節水などの水資源の保全**
- **災害への備え**
 - ハザードマップの確認
 - 避難経路・場所の確認
 - 防災グッズ



安全ニュースVol.281(2025年5月号)で

キキクル(危険度分布)をご紹介中

https://www.rental.co.jp/topics/pdf/2025_281.pdf

